

ヴァチカン図書館所蔵「バレット写本」の基礎的研究

川口 敦子

京都大学大学院文学研究科
国語学国文学専修 博士後期課程

ヴァチカン図書館所蔵写本 Reg. Lat. 459, 通称「バレット写本」の書誌に関しては、この写本を発見したイエズス会士ヨゼフ・フランツ・シュッテ氏 Joseph Franz Schütte S. J. の論文, *Christliche japanische Literatur, Bilder und Druckblätter in einem unbekanntem Vatikanischen Codex aus dem Jahre 1591*, *Archivum Historicum Societatis Iesu*. Vol. IX., 1940, pp. 226 - 280. に詳しい⁽¹⁾。シュッテ氏の報告と重複する部分もあるが、以下、2000年10月、ヴァチカン図書館における筆者の調査に基づく所見を述べる。

1. 「バレット写本」概要

ヴァチカン図書館 Biblioteca Apostolica Vaticana 所蔵
所蔵番号：Reg. Lat. 459(あるいは Reg. Lat. 459)⁽²⁾

旧蔵者：スウェーデン女王クリスティナ Kristina
(Christina), Queen of Sweden, 1626 - 1689

装丁：漆塗りの革、背バンド3本、空押し(表紙
パネルに星と花紋様、フレームに楕円形の
紋様、背に星と花紋様)、天地に空押しで
縄目紋様

表紙：縦17.0cm .×横12.6cm .

本文の紙：縦16.2cm .×横12.3cm (3)

1591年(天正19年)、イエズス会士マノエル・バレット
Manoel Barreto S. J., 1564 - 1620による書写

2. 写本の外観

2.1. 本体

写本本体はとても軽く、全体的に中央がやや膨らんだように反っている。

表紙を含む全体の厚さは、最も薄い箇所(表紙)で4.0cm .、最も厚い箇所(中央)で4.5cm .である。表紙を除いた中身だけの厚さは、最も薄い箇所(表紙)で3.2cm .、最も厚い箇所(中央)で3.8cm .である。

天地には、空押しで、六角形をつなぎ合わせたような縄目紋様の装飾が施されている。

花ぎれ(ヘッドバンドとテイルバンド)は黄色と赤色の糸によるものである。

なお、のどの部分に、写本を綴じている比較的新しい白糸と、茶色く変色した古い糸による綴じ目が見える(マイクロ影印では51v - 52r, 55v - 56r, 273v - 274r, 343v - 344r, 382v - 383r にはっきり写っている)。この写本は後世に補修あるいは再装丁されたようである。

2.2. 背

背には3本の背バンド(綴じ紐)による厚みがあり、四つに区切られている。第一番目の区画には「459」と手書きされた八角形の蔵書票(少し破損)が貼ってある。第二番目の区画には「Reg. lat. 459」と印字された長方形のヴァチカン図書館の蔵書票(数字の部分が破損)が貼ってある。第三番目と第四番目の区画には、空押しで星と花紋様の装飾が施されている。

2.3. 表表紙

表表紙の大きさは、縦17.0cm.×横12.6cm。軽い木板に、黒い漆塗りの革⁽⁴⁾で装丁している。パネルには空押しで星と花紋様の装飾が施されている。フレームには空押しで楕円形の模様で装飾が施されているが、摩耗している。前小口側に、本を留める革ベルトを付けた留め金の跡が2箇所残っている。

2.4. 効き紙（表表紙）

表表紙の効き紙（見返し、paste-down）の三小口には、表の革装丁の端が被さっている。効き紙の左上には朱色で何かの文字が書きかけてあり、その右横に焦げ茶色のインクで「459.」と書いてある。さらにその右横に鉛筆で「Reg.」と書いてある。前述のインク書きの「459.」の右下に、インクで「1642」と書いてあるが、これは、やはりインク（「1642」を書いたインクと同じ色である）の線で消されている。「1642」の左下、効き紙の左側（小口側）には、背に貼ってある長方形の蔵書票と同じものが貼ってある。効き紙の左上のインク書きされた「459.」の箇所と、効き紙の左下の余白部分には、大きな虫損がある。

2.5. 効き紙（裏表紙）

裏表紙の効き紙には「459.」という数字が、表紙の効き紙と同じ字体、同じ色のインクで書いてある。

2.6. 裏表紙

裏表紙の大きさは、縦17.0cm.×横12.8cm。表表紙と同じ装丁である。ただし、留め金の跡はない。また、空押しによる模様は表紙よりも摩耗が著しい。

3. 中身

3.1. 紙

本文に使われている紙の大きさは、縦16.2cm.×12.3cm。打ち紙をした楮紙⁽⁵⁾。

紙には中枠があり、本文や絵はこの枠内に収まるように書かれている。枠の大きさは、縦14.0cm.×10.0cm.-10.2cm。枠の線は墨で引かれている。

ただし、55rの前小口側に、欄外注の上部と下部に切り込みが横に入っている部分がある。切り込みの長さは紙の端から1.0cm.で、注が書かれた部分だけが

小口の外へ0.5cm.はみ出るようになっており、はみ出た部分の約0.2cm.がページの裏側へ折り込まれている。これは、この写本が現在の形に装丁される作業段階で小口を裁断するとき、このページの欄外注を切り落とさないようにするためにおこなったのであろう。したがって、装丁前の紙の大きさは現在の状態よりも0.5cm.ほど大きかったと推定できる。この切り込みが入れられたのが、最初に装丁したときであったか、後世に再装丁したときであったかはわからない。

また、使用されている紙はすべて同じ厚さの紙ではなく、例えば、132丁から139丁にかけては明らかに他より厚く、165丁から226丁、255丁から261丁にかけては他よりも薄い紙が使われている。

3.2. 前付け

丁付けのある本文の前に、丁付けのない紙葉（前付け）が5葉ある。それぞれにローマ数字でⅠからⅤまで、鉛筆書きで丁付けがされている⁽⁶⁾。このローマ数字による丁付けは後世のものであろう。また、Ⅰ葉からⅤ葉までは、紙葉の2箇所に虫損がある。

Ⅰ_r、Ⅰ_vは枠だけで何も書かれていない。

Ⅱ_rにはバレットによるポルトガル語の序文が記されている。序文の内容は以下の通りである。「Qualquer padre, ou Irmaõ que deste car-/tapagio se seruir se lembre de en-/comendar a nosso Sñor ao mi-/nimo da Comp.^a e seruo de/todos o pe Manoel/Barreto. / 1591. .」(=この文書集を使うどんな神父も修道士も、修道会の最も小さい者であり全ての人々の僕であるマノエル・バレット神父のことを、我々の主に祈ってほしい。1591.) 序文の下の余白部分に、ヴァチカン図書館の蔵書印が押してある。

Ⅱ_v、Ⅲ_r、Ⅲ_vは枠だけで何も書かれていない。

Ⅳ_rには、大きな楕円形の縁飾りのあるIHSの紋章（イエズス会章）と、その四隅にアラベスク紋様の飾り模様がスタンプのような物で押してある。

Ⅳ_vには、救世主としてのキリストを描いた銅版画が貼り付けてある。この絵のキリストは、頭上には光輪が描かれ、右手で祝福を与えるポーズを取り、「世界の救世主」であることを示す「上部に十字架の付いた球体」を左手に持つ。この銅版画は焦げ茶色のインクで別紙に印刷されている。絵が印刷された紙は、紙

葉の枠に収まるように貼られており、金色の紙(内側)と朱色の紙(外側)で縁取られている。縁取りの一部に破損がある。左下の縁取りが剥がれている部分からは、銅版画が印刷されている紙の元の縁が見えており、左下隅に「E」という文字がかすかに読みとれる。

V_rには横木が2本ある十字架が書かれている。

V_vは枠だけで何も書かれていない。

3.3. 本文の詳細

丁付けのある本文は1丁から382丁までである。ただし、275丁と289丁に丁付けの重複がある。本文は、特記する場合を除いて、ほとんどが墨で書かれている。バレットの筆跡による本文への書き込みの中には、インクか、やや薄い墨で書いたと思われる箇所もある。

1_r - 3_vは、ポルトガル語で「*Historia breue da cruz q̃ milagrosamente apareceo em Jappaõ .*」(1_r)(=日本で奇跡的に出現した十字架の短い物語)と朱書きの標題があり、十字架の奇蹟物語を収める。3_vの本文の後には飾り模様がある。

4_r - 48_rは、ポルトガル語で「*Euangelhos das Domingas do ano. E de alguas festas principais do Anno.*」(4_r)(=一年の主日と一年の主要ないくつかの祝日の福音書)と朱書きの標題があり、主日のための福音書の章節を収める。それぞれの福音書の章節にはポルトガル語(一部日本語)で題が付けられている。4_rの枠下辺には蔵書印(II_rと同じ印)が押してある。47_vの末尾には飾り模様があり、48_rの末尾には「*finis Laus DEO.*」(=終わり。主に讃美。)とラテン語で書かれている。

48_vは、枠だけで何も書かれていない。

49_r - 50_vには、ポルトガル語で題が付けられた、キリスト復活後の祝日の福音書の章節が2編収められているが、共通の大きな標題でまとめられているわけではない。

51_rは、丁付けと枠だけで何も書かれていない。

51_vには、キリストの磔刑図を描いた銅版画が貼り付けてある。IV_vの絵と同様に、銅版画が印刷されている紙は、金色と朱色の紙で縁取りしてある(破損なし)。磔刑図は円の中に描かれており、円の外側は模様で飾られている。絵の中央に十字架上のキリストが、

その両側には磔刑に処せられた二人の強盗が描かれている。キリストの足許には、一人の男性と三人の女性が描かれている。男性は、頭上に光輪が描かれており、左手に棕櫚の枝を持つことから、福音書記者の聖ヨハネであることがわかる。三人の女性のうち、頭上に光輪が描かれ、倒れ込んでいる女性が聖母マリアである。聖母の左手を取って跪いている女性は、髪が長く、膝元に油壺が描かれていることから、マグダラのマリアであるとわかる。

52_r - 60_rには、四旬節中の金曜日のための福音書の章節が6編収められているが、共通の大きな標題でまとめられているわけではない。それぞれの章節にはポルトガル語で題が付けられている。60_rの末尾には飾り模様がある。

60_v - 77_vは、ポルトガル語で「*Passio Domini ñri Jesu Christi.*」(60_v)(=我々の主イエス・キリストの受難)と朱書きの標題があり、キリストの受難物語を収める。

78_r - 82_vには、キリストの受難の道具に関する対話と、「石の柱」や「綱」、「鞭」など、受難の場面に登場する道具についての説明が収められているが、共通の大きな標題でまとめられているわけではない。また、それぞれの道具の説明には日本語で題が付けられている。82_vの末尾には「*finis Laus Deo.*」と書かれ、その下に日本語で「*ycani Vó Aruji IESV xº Varerauo avaremi tamaye. / ycani Vó Aruji IESV xº avaremi tamaye ninguê / no togauo yuruxi tamaye.*」(いかに御主ゼズ・キリシト我らを憐れみ給へ。いかに御主ゼズ・キリシト憐れみ給へ人間の科を赦し給へ)という祈りの文言が3行にわたって書き込まれている。

83_r - 83_vは、丁付けと枠だけで何も書かれていない。

84_r - 100_vは、ポルトガル語で「*Euangelhos proprios Dos Sanctos*」(84_r)(=聖人たち固有の福音書)と朱書きの標題があり、聖人の祝日のための福音書の章節を収める。それぞれの福音書にはポルトガル語で題が付けられている。100_vの末尾には、正方形の飾り縁のあるIHS紋章と飾り模様がある。

101_rには、聖ヤコブの絵を印刷した紙が貼られている。紙の縁取りは前出の絵と同様である(破損なし)。

像の足許のキャプションには「S. Iacobus」とある。この絵の聖ヤコブはカトリック図像学の伝統に則って巡礼者姿で描かれており、頭上には光輪が描かれ、右手に巡礼の杖を持ち、服の襟には帆立貝の紋章を付け、つば広の帽子を身に付けている。

101v は、枠だけで何も書かれていない。

102r - 103r は、日本語で「Xugono Anjono gocago .」(102r) (守護のアンジョのご加護)、ラテン語で「Effectus Angeli Custodis .」(102v) (= 守護天使の働き) と題されており、それぞれ日本語とラテン語で、守護天使の加護について箇条書きで記してある。103r の末尾には「finis Laus Deo .」と書いてある。

103v - 107v は、丁付けと枠だけで何も書かれていない。

108r - 110r は、ポルトガル語で「Index das Dominicas E Euangelhos de todo o anno, que aqui estaõ Escriptos .」(108r) (= ここに書かれている、一年中の主日と福音書の索引) と題されており、写本に収められている主日の福音書の目次を収める。

110v - 111r は、ポルトガル語で「Index dos Euangel proprios das festas dos Sanctos que aqui Estaõ .」(110v) (= ここにある、聖人たちの固有の福音書の索引) と題されており、写本に収められている聖人の祝日のための福音書の目次を収める。

111v - 115r は、丁付けと枠だけで何も書かれていない。

115v には、聖母マリアと幼子イエスを描いた銅版画が貼り付けられている。紙の縁取りは前出の絵と同様である(破損なし)。聖母マリアの前に置かれた台の上で枕をして眠る幼子イエスに向かって、聖母が手を合わせて礼拝する図である。聖母は冠をかぶり、その頭上に光り輝く三重の光輪には「PVL CRA VT LVNA」(= 月のように美しい) とラテン語で書かれている。

116r - 158r は、ポルトガル語で「Algũs milagres da uirgẽ nossa Sñora, e Rainha dos Anios」(116r) (= 我々の女主人、そして天使の女王であるおとめのいくつかの奇蹟) と朱書きの標題があり、聖母マリアの奇蹟物語を収めている。ただし、132r - 155v の本文はバレット以外の人物による書写である。この別筆の部分だけ

は、左右の枠線に沿って針のような物で等間隔に20行分の目印が付けてあり、その左右の目印をまっすぐ結ぶ直線上(実線は引かれておらず、くぼみなども見えない)に本文が書き込まれている。写本全体でも、バレットの筆になる他の部分ではこのような目印の跡は見られない。158r の末尾には「Finis Laus DEO : atq̄ ipsa semper Virgo Maria laudetur in perpetuum Amen .」(= 終わり。主に讃美。そしてまた常におとめマリアも永遠に讃えられる。アーメン。)と書いてある。

158v - 160r は、ポルトガル語で「Index dos Milagres da Virgem nossa Sñora que aqui se contem .」(158v) (= ここに語られている、我々の女主人であるおとめの奇蹟の索引) と題されたポルトガル語による聖母マリアの奇蹟物語の目次と、「Index dos Milagres na lingoa de Jappaõ .」(159v) (= 日本の言葉による奇蹟の索引) と題された日本語による聖母マリアの奇蹟物語の目次を収める。160r の末尾には飾り模様がある。

160v は、枠だけで何も書かれていない。

161r - 168r は、日本語で「Sancta Maria de Loreto no voncoto .」(サンタ・マリア・デ・ロレトの御事)(161r) と題された、ロレトの聖母の奇蹟物語を収める。これとほぼ同じ内容の話が、136r - 03から138v - 05に収められている。163r の末尾には飾り模様がある。

163v には、聖ペテロを描いた銅版画が貼り付けられている。紙の縁取りは前出の絵と同様である(右上角に破損あり)。像の足許のキャプションには「S. Petrus」とある。この絵の聖ペテロはカトリック図像学の伝統に則って漁師の姿で描かれ、頭上に光輪が描かれ、右手に書物を、左手に鍵を持っている。また、「1590」と書かれた小さな長方形の石を右足で踏んでいる。

164r - 368r は、ポルトガル語で「Vidas gloriosas de algũs Sanctos E Sanctas .」(164r) (= 何人かの聖人たちと聖女たちの栄光ある生涯) と朱書きの標題があり、聖人伝を収める。それぞれの聖人伝にはポルトガル語で題が付けられている。何編かの聖人伝については、末尾の余白に飾り模様がある。飾り模様があるのは次の丁である。168r, 173r, 178r, 181v, 184v, 189r, 193v, 199r, 208r, 215v, 224v, 226r, 228v, 262v, 275bv, 289ar, 291r, 293r, 298r, 300v, 305r, 322r, 331

v, 359v, 364r. また, 368r には蔵書印 (II r, 4 r と同じ印) が押してある。

368v - 379r は, ラテン語で「INDEX QVI RES eas, de quibus in hoc codice agitur ad certa capita alphabeti ordine digesta, reuocatas, summa breuitate complectit' r.」(= この文書で取扱われた事について, それをアルファベット順に分類し, 関係付け, 全体について簡単にまとめた索引) と題された, ラテン語によるアルファベット順の事項索引を収める。

379v は, 枠だけで何も書かれていない。

380r - 381r は, ポルトガル語で「INDEX DAS VIDAS DOS SANCTOS」(380r) (= 聖人たちの生涯の索引) と朱書きの標題があり, 聖人伝の目次を収める。380r の枠下辺には蔵書印 (II r, 4 r, 368r と同じ印) が押してある。

381v は, ポルトガル語で「INDEX GERAL do que esta neste liuro.」(= この書物の中にあるもの全体の索引) と題された, ポルトガル語による写本全体の内容目次を収める。余白には飾り模様がある。

382r には, 縁飾りが施された長方形の IHS 紋章と, IVr のものと同じアラベスク紋様の飾り模様が四隅に押されている。

以上, 本文は382r までである。382v は枠だけで何も書かれていない。その後, 丁付けがなく枠だけの紙葉が4葉, 全くの白紙が1葉収められている。

3.4. 飾り模様

写本の本文の余白部分に使われている飾り模様は, アラベスク紋様が4種類, IHS 紋章が2種類, S 字型が2種類, 小十字架型が1種類, 計9種類である。これらの模様は単独で, あるいは何種類かを組み合わせて, 余白の装飾として用いられている。さらにIVr の大きな楕円形 IHS 紋章と382r の大きな正方形 IHS 紋章を加えれば, 飾り模様は全部で11種類になる。これらの飾り模様の中には, 模様の線がひどくぶれていたり, 枠からはみ出していたり, 模様の外側の, 型の角にまで墨が付いているものもある。この状態から判断すれば, これらの飾り模様は直接印刷したものではなく, 本文を写し終えた後の余白に, 模様の型を墨に付けて

スタンプの要領で押したものであろうと思われる。

バレット写本に使用されている飾り模様のうちの何種類かは, 他のキリシタン版にも全く同じものが使用されており, 重要な書誌的情報を与えてくれるが, この問題については, 紙数の関係もあり, 別稿に譲りたい(7)。

- (1) この論文の I, II, IV 章は日本語訳されて「ヴァチカン図書館所蔵バレット写本について」という題で『キリシタン研究』第7輯(吉川弘文館 1962)に収められている。以下, 原文と訳文の引用はこれによる。
- (2) Reg. Lat. 及び Regin. Lat. は Codices Reginenses Latini (= 女王のラテン古写本) の省略である。なお, クリステイナ女王の伝記については, 下村寅太郎『スウェーデン女王クリスチナ バロック精神史の一肖像』(中央公論社1975, 中公文庫1992)に詳しい。それによれば, クリステイナは1654年に28歳でスウェーデン女王を退位し, 翌年, イエズス会士の仲介によってカトリックに改宗, 以後ローマに居を定めた。在位中から書籍の蒐集には非常に熱心であったという。彼女の死後, その蔵書は法皇によって買い取られ, うち900冊がヴァチカン図書館に収められたということである。ちなみに, クリステイナの墓碑は, ヴァチカンのサン・ピエトロ大聖堂内, ミケランジェロの「ピエタ」像の斜め向かいにある。
- (3) シュッテ前掲論文によれば, 本文に使用されている紙は

Er besteht ganz aus japanischem Papier und misst 13,3 × 17cm.

(全部日本紙で縦一七センチ, 横一三三センチ。)
とあり, 以後バレット写本の書誌について書いたものは, この報告を基にしているようである。この「13,3 × 17cm .」とは, 背表紙の膨らみも含めて写本を正面から見た大きさを示しているようである。

なお, ベネディクト会士アンドレ・ウィルマルト氏 Andre Wilmart, O. S. B. によるクリステイナ女王旧蔵古写本の目録 Codices reginenses latini, 1945には,

459. An. 1591 (cf. f. II), chart., mm. 162 × 123 (140 × 100/102), ff. V. 382, linn. 20 - 22.

と記されている。

また、パレト写本は2000年11月に東京で開催された「東京大聖書展」において展示されたが、その目録『死海写本と聖書の世界 キリスト降誕2000年「東京大聖書展」公式展示品カタログ』には、パレト写本のカラー図版と簡単な解説が掲載されている。このカタログでは、パレト写本の寸法は「16.2×12.8」センチとある。

- (4) 「漆塗り」はシュッテ前掲論文による。黒く光沢のある樹脂が塗られた革である。
- (5) 土井忠生氏の所見では「斐紙」とある(『吉利支丹文献考』三省堂 1963, p.159)。確かにこの和紙の表面は滑らかである。しかし、紙の繊維は比較的荒く、所々に数センチ大の木の表皮らしき繊維が混ざ

った状態で漉かれている。斐紙は繊維が非常に細かいものであり、したがって、パレト写本に使われている紙が斐紙であるとは考えにくい。

- (6) シュッテ前掲論文には、

Die ersten 5 Folio waren nicht nummeriert, sie erhielten erst kuzlich die Bezeichnung A - E.

(最初の五枚は丁づけがなく、先頃になって A から E までの記号がつけられた。)

とあるが、紙葉にはそのようなアルファベットは書き込まれていない。

- (7) 『京都大学国文学論叢』第6号に掲載予定。

(B02 伝承と受容(日本)班 研究協力者)

